

主題：
諸召会における失敗、召会の墮落、
召会における勝利者、召会の回復、召会の各段階

メッセージ 4

召会の墮落（3）

初めの愛を離れる

聖書：啓2:1-5. エペソ3:16-19. 5:2. 6:24. 雅7:11-12. 8:6-7

I. 「しかし、わたしには、あなたを責めるべき事が一つある。あなたは初めの愛を離れてしまった」——啓2:4:

- A. エペソに在る召会は多くの美德をもっていました、初めの愛を離れてしまったので、墮落しました——エペソ2:1-4。
- B. 4節の「初め」というギリシャ語は、ルカによる福音書第15章22節で「最上の」と訳された言葉と同じです。主に対するわたしたちの初めの愛は、彼に対する最上の愛でなければなりません。
- C. キリストのからだとして（エペソ1:23）、召会は命の事柄です。新しい人として（エペソ2:15）、召会はキリストのパーソンの事柄です。キリストの花嫁として（ヨハネ3:29）、召会は愛の事柄です（エペソ5:2, 25. 6:24）。
 - 1. エペソ人への第一の手紙が告げているのは、召会生活のために、わたしたちは内なる人の中へと増強され、キリストがわたしたちの心の中にホームを造り、わたしたちが愛の中に根ざし土台づけられ、知識を超越したキリストの愛を知り、満たされて神の全豊満へと至る必要があるということです——エペソ3:16-19:
 - a. 愛は神の要素、内なる実質です——Iヨハネ4:8, 16。
 - b. エペソ人への手紙の目標は、わたしたちを神の内なる実質の中へともたらし、わたしたちが愛としての神を享受し、神聖な愛の甘さの中で神の臨在を享受し、こうしてキリストが愛されたように他の人を愛することです。
 - 2. エペソ人への第二の手紙が啓示しているのは、召会の墮落が、わたしたちが主に対する初めの愛から離れることをもって始まるということです——啓2:4:
 - a. エペソに在る召会には良いわざがあり、主のために労苦し、苦難を耐え忍び、偽使徒たちを試しましたが、召会は主に対する初めの愛を離れてしまいました——啓2:2-4。
 - b. 今日、地方召会の中にいるわたしたちは、主に対する初めの愛を失う可能性について警告されなければなりません:
 - (1) わたしたちは主のための働き、労苦し、教理的に純粹であり、靈的に正しくても、主に対する初めの愛を持っていないかもしれません。
 - (2) いったんわたしたちが初めの愛から落ちるなら、わたしたちの墮落は始まっているのです。
- D. 「そこで、あなたはどこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めのわざを行な

いなさい」——5節：

1. 初めのわざとは、初めの愛から出てきて、初めの愛を表現するわざです。
2. わたしたちが主に対する初めの愛で満たされるとき、わたしたちが行なうことはすべて彼に対するわたしたちの愛から出てきて、その愛を表現するでしょう——エペソ3:19, 4:16. II コリント5:14-15, 20。
3. わたしたちは主が働いている場所で、主に対するわたしたちの愛を表現すべきです。わたしたちは主の働きのただ中で、わたしたちの愛を彼にささげるべきです——雅7:11-12。

II. 愛だけがわたしたちを主との正しい関係の中に保つことができます——マルコ12:30.

I コリント2:9. 雅8:6-7 :

- A. 神の愛がわたしたちの心の中に注がれています——ローマ5:5 :
 1. 愛としての神は、わたしたちの心の中に注がれている神聖な本質です。神の愛がわたしたちの心の中に注がれることは、神の本質の事柄です。
 2. 再生された者たちとして、わたしたちは神の本質の性質としての愛をわたしたちの内側に持っています——ヨハネ1:12-13, 3:3, 5-6. I ヨハネ4:8, 16。
 3. 神の愛がわたしたちの心の中に注がれているので、あらゆる信者の心は愛の心です——I テモテ1:5. II テモテ2:22。
- B. 神の中の愛が、わたしたちと結合し、ミングリングし、合併したいという切望をご自身に与えます——I ヨハネ4:8, 16, 19。
- C. 主イエスを愛することは、彼を高く評価し、わたしたちの全存在を彼に向け、彼に開き、彼を享受し、彼に第一位を与え、彼と一になり、彼を生き、彼となることです——マタイ26:6-13. II コリント3:16. マルコ12:30. コロサイ1:18. I コリント6:17. ペリピ1:20-21. 「詩歌」366番、2節。
- D. 主イエスは神聖なロマンスにおけるご自身の愛の中でわたしたちに求愛しています。もしわたしたちが彼の求愛の言葉を守ろうとするなら、彼に対して応答する、愛情深い愛を必要とします :
 1. このように応答する愛情深い愛が雅歌の中に描かれています。そこには、愛する方と彼の愛する者との間の愛の描写があります——1:2-4. II コリント5:14-15. ヨハネ14:21, 23。
 2. 雅歌の主題は卓越した求愛と結婚における愛の歴史であり、それはある個人的な信者とキリストとの漸進的な経験を啓示しています——1:2 :
 - a. 雅歌は、花婿としてのキリストと花嫁としての彼の愛する者たちとの間の新婚の愛を詩的な形式で、すばらしく、生き生きと描いています——2:4, 6:3, 7:11-12, 8:6-7, 14。
 - b. わたしたちは真に主を愛するなら、確かに命の成長と造り変えを持つでしょう——II コリント5:14-15, 3:18。
 - c. 雅歌における追い求める者が愛する方をとて愛しているので、彼女は神聖な分与を経験し、命の成長において絶え間のない変化があります——1:9, 15, 2:2, 14, 3:6-7, 4:7, 6:4, 10, 13。
3. 「愛は死のように強く……大水も愛を消すことができません。洪水もおぼれさせ

ることができません。もし、人が自分の家の財産をことごとく与えて、愛に換えようとするならば、限りなく卑しめられるでしょう」——8:6-7:

- a. 主の愛は試みによって消されることはできませんし、迫害によっておぼれることもありませんし、いかなる富によって置き換えられることもできません——ローマ8:35-39. I コリント13:1-3。
- b. 「あなたの愛は熱い火のよう」、「燃やして、燃やして、おお、わたしの心を日夜ひどく燃やしてください。他のすべての愛がどこにも見当たらないほどに燃やしてください」——詩歌169番、2節と4節。

© 2016 *Living Stream Ministry*